

Bulletin of  
the Yokohama Phytosociological Society, Vol. 42  
March 1982, Yokohama/Japan

# 高浜原子力発電所の 植物群落の動態に関する調査・研究II

Daueruntersuchung der Vegetations-Dynamik in der  
Umgebung Takahama-Atomkraftwerks (Fukui-Präfektur, Japan) II

昭和55年度報告  
Bericht über die 2. Jahren 1980

宮脇 昭・鈴木邦雄・右手和夫  
村上雄秀・鈴木伸一  
(横浜国立大学環境科学研究センター)

von  
Akira MIYAWAKI, Kunio SUZUKI, Kazuo UTE,  
Yuhide MURAKAMI und Shin-ichi SUZUKI

(Inst, Environmental Science & Technology, Yokohama National University, Yokohama)

1982・3

## 横 浜 植 生 学 会

The Yokohama Phytosociological Society, Japan

## はじめに

新しい産業立地、エネルギー基地の建設に際して、周辺の自然環境がどのような影響を受けるかの予測調査はアセスメントとして重要視されている。しかし植物や植生などの生物科学の分野から厳密な具体的予測はかなり困難を伴う。また自然の開発、各種建設作業の実施に際しては必然的にある程度の自然の変化・破壊を伴う。また各種構造物の建設に際して対象域は鉄・セメント・石油化学製品などの非生物的材料による人工環境変化を生ずる。

したがって、周辺部を現状に復帰させれば事足りる時代は終わった。積極的に立地本来の植生などの生きた構築材料：Lebendiger Baustoffを使いきった多様で安定した生物学的な自然環境や自然に近い環境を創造する時代である。また、いわゆるアセスメントよりも、工事後あるいは各種エネルギー産業諸施設の稼動によって、現実にとど様な影響が周辺の植生や生物的自然環境にもたらされるかの具体的な追跡調査を行うことがもっとも間違いの少ない真のアセスメントのほうである。

とくに、移動能力のない植物種群の組み合わせから形成されている植生や植物群落の継続的な定期調査・測定によって、建設された発電所、各種工場あるいは道路などの直接、間接の影響が周辺部にどのように働いているかを把握できる。このような生物学的、生態学的な環境影響調査は、同一植生や地区を対象とした定期的な継続測定が前提となる。

本報は福井県大飯郡高浜町の音海半島に位置している関西電力㈱高浜原子力発電所サイト内の影響評価の一環として行われた調査結果である。昭和53年（1978年）5月の第1次の永久方形区による植生動態測定・調査結果に引き続いて昭和55年（1980年）5月の第4次、同年9月の第5次、昭和56年（1981年）3月の第6次調査結果についてまとめられている。

さらに、今後も継続的な植生動態調査が同じ永久方形区で行われ、さらに確実な環境影響の評価、積極的な植生復元、よりよい環境創造の具体的な成果が測定されるように強く望まれる。

現地調査に際して御協力いただいた関西電力㈱環境部の皆様に謝意を表したい。

# 目 次

はじめに

I . 地域概況	1
II . 発電所建設に伴う影響評価の方法	4
III . 高浜原子力発電所における永久方形区の選定と位置	5
IV . 調査日程	9
V . 調査法	10
1 . 植生調査	10
2 . 組成表の作成	13
3 . 群落動態の解析	13
VI . 調査結果	14
1 . 群落動態区分	14
2 . 階層別群落構造図	42
3 . 群落断面模式	58
4 . 動態に関する考察	69
VII . 永久方形区にかかわる地点の土壌調査	95
参考文献	103